

□■養成所ニュースプラス第 12 号 2024□■

パリオリンピックも最終盤、11 日に閉幕となります。平和の祭典が大きく報道される 一方、一般市民が暮らしを奪われ命さえ奪われている現実もあります。8 月 6 日は広島原爆の日、9 日は長崎原爆の日でした。15 日は終戦記念日となります。経験した方の語りに耳を傾け、平和について思いをはせる 8 月です。

Plus Quiz は「相談援助の理論と方法」(現、ソーシャルワークの理論と方法【共通】)から様々なアプローチを取りあげます。今回も選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるか合わせて考えてみましょう。

■Plus Quiz ・ ・ ・ ・ ・

【第 35 回問題 99】ソーシャルワークのアプローチに関する次の記述のうち、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

1. 行動変容アプローチでは、クライアントの主体的な意思決定や自己選択が重視され、自分の行動と決定によって生きる意味を見いだすことを促す。
2. 問題解決アプローチでは、クライアントのニーズを機関の機能との関係で明確化し、援助過程の中で、社会的機能を高めるための力の解放を焦点とする。
3. 実存主義アプローチでは、その接触段階で、クライアントの動機づけ・能力・機会についてのソーシャルワーカーからの探求がなされる。
4. ナラティブアプローチでは、クライアントのドミナントストーリーを変容させることを目指し、オルタナティブストーリーを作り上げ、人生を再構築するよう促す。
5. 機能的アプローチでは、ターゲット問題を明確化し、クライアントが優先順位をつけ、短期処遇を目指す。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info ・ ・ ・ ・ ・

- ・ (35 期生) 教育訓練給付制度 (専門実践教育訓練) の支給希望の方へ
申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。
本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。
- ・ (36 期生) 教育訓練給付制度 (専門実践教育訓練) の支給希望の方へ
「受給資格者証と公的身分証明書のコピー」の提出をされていない方は、早急に提出してください。
- ・ (36 期生) 見込書類 (実務経験証明書) のさしかえについて
入学願書提出時に「実務経験見込証明書」を提出している方は、入学資格または実習免除を満たした期間の「実務経験証明書」の提出が必要となりますので、早急に提出してください。
- ・ 受講の手引の表紙裏 (表紙の次のページ) に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。
レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。

■Test Info ・ ・ ・ ・ ・

国家試験に関する情報をお届けします

- ・ 第 37 回国家試験は、令和 7 年 2 月 2 日 (日) です。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1336752&c=3246&d=99c7>
- ※試験時間、試験科目 (午前・午後の内訳) が公開されました。
- ・ 第 37 回社会福祉士国家試験『受験の手引』請求窓口が開設されました。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1336753&c=3246&d=99c7>
- ※上記 URL にアクセスし「3 申し込み手続き方法」を確認してください。
- ・ 第 37 回国家試験から適用する社会福祉士国家試験合格基準並びに総試験時間数が公表されました。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1336754&c=3246&d=99c7>

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1336755&c=3246&d=99c7>

■Plus Info

その他の情報をお届けします

・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1336756&c=3246&d=99c7>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1336757&c=3246&d=99c7>

■Plus Column

今週はお休みです。次回は受験勉強のプラスアルファの工夫についてお伝えします。

【Plus Quiz 正答と解説】

「様々な実践モデルとアプローチ」は、この科目で毎年出題される項目です。繰り返し出題される項目こそ必ず過去問にあたきましょう。全く同じ問題は出ないので、正答を「覚える」のではなく、間違った選択肢をどのように修正すれば正しくなるのか考えつつ理解していくことが大切です。

今回挙げた第 35 回の誤りの選択肢にある実存主義アプローチは、第 36 回では正しい選択肢として出題されています。今回の正しい選択肢であるナラティブアプローチは第 34 回で誤りの選択肢として出題されています。このように重要な項目は繰り返し形を変えて問題が作られます。

それぞれのアプローチは、誰が提唱したのか、ソーシャルワークの歴史（発展過程）のいつ頃のものか、どのような影響を与えたのか、特徴は何か、このような点を整理して理解していきましょう。ただし、アプローチはたくさんの種類があり、すべてを正確に理解することは難しいと感じるかもしれません。そんなときは共通科目テキスト 12 第 7 章を参考にするのも良いかもしれません。3～4 行の短い事例でアプローチの視点が示されています。

「ソーシャルワークの理論と方法（共通）」でも新出題基準において新たに項目立てされた内容がありますが、既に旧カリキュラムに基づく試験に関連する内容が出題されてきました。そのため、この科目では過去問に繰り返しあたり理解することが早道の攻略法と言えます。

1. ×実存主義アプローチの説明です。行動変容アプローチは、1960～70 年代にトーマスらが提唱した、オペラント条件付けや社会的学習理論等を基礎とした支援方法です。「行動」の強化や消去により問題解決を目指します。
2. ×機能的アプローチの説明です。問題解決アプローチは、1950 年代にパールマンによって生み出されました。クライアント自身で解決できるように問題解決過程でクライアントの自我機能を安定させ問題を切り分け、そのコンピテンシーやワーカビリティを高めます。
3. ×問題解決アプローチの説明です。実存主義アプローチは、1960 年代にクリルによってソーシャルワークに適用されました。クライアントの主体的な意思決定や自己選択が重視され、自分の行動と決定により生きる意味を見出すことを促します。自己を安定させることで、阻害からの解放を目指します。
4. ○ホワイトとエプストンが 1990 年に著したナラティブアプローチは、社会構成主義を応用し人々が語る人生の物語（ナラティブ）に焦点を当て心理的治療を行う手法です。クライアントを支配するドミナントストーリーを傾聴し、クライアントとともに新しい物語（オルタナティブストーリー）を作っていきます。
5. ×課題中心アプローチの説明です。機能的アプローチは診断主義への批判として登場し、1930 年代にタフトとロビンソンらが形作り、1960 年代にスモーリーが再構築し発展させました。クライアントの潜在的な可能性を引き出し成長を促すために、機関の機能を十分に活用することに焦点を当てた手法です。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus